



鳥取市総合教育センターだより

第5号 令和4年3月15日発行

〒680-0053
鳥取市寺町 150 番地
TEL: 0857-36-6060
FAX: 0857-26-3878
E-mail:
kyo-center@city.tottori.lg.jp

組織改編 1年を経て

所長 安田 直人

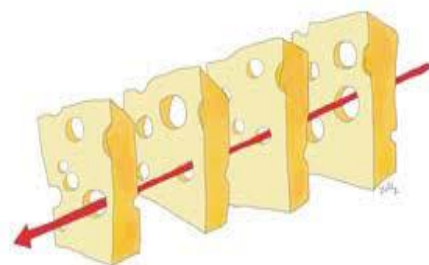
3月に入り、各地から卒業式の話が聞かれる時期になりました。本市においても、先週3月11日は中学校・義務教育学校で、今週末18日は小学校で卒業式が挙行され、来週24日の修了式で本年度の教育活動が締めくくられます。各学校におかれましては、本年度もコロナ禍による様々な制限を余儀なくされる状況の中、最小リスク・最大効果を基本として創意工夫しながら教育活動を展開されたことと思います。

年度初めに策定された学校教育目標、学年・学級経営目標、教科経営目標、分掌目標等の達成度合はいかがだったでしょうか。本センターにおいても、今年度事業の総括と次年度の方針について、外部有識者や専門家、県教委、小・中学校長会代表、PTA 連合会長等による審議を終えたところです。

さて、組織改編により研修企画係・児童生徒支援係の2つをセンターに統合して1年経ちますが、それぞれの所管業務について感じたことを書いてみようと思います。まず、研修についてですが、「教師力アップ」「学校力アップ」につながるかどうかのカギの1つは「My アイデアシート」の活用にあるようです。研修内容を受講者自身にとどめることなく、分掌内や職員会議等で共有し、自校の取組に取り入れる等の形で還元し、学校全体が活性化した事例がありました。中には、研修資料を用いて校内で自主研修会を開いたり、「My アイデアシート」を復命の際のツールとして活用したりするなど、受講者自身や校内職員の資質・能力向上につなげた学校もありました。

次に生徒指導では、問題解決の分岐ポイントは「組織対応」「初期対応」にありそうです。早期解決を図ったり深刻化を回避したりしている学校では、報告・連絡・相談が日常的に行われており、情報が一教員や学年レベル等でとどまることなく迅速に伝達され、最善の方針や方策が組織決定されています。また、いじめが生じた際には、いじめを受けた児童生徒の心情に寄り添った対応をすることはもちろん、いじめを行った児童生徒に対しても指導のチャンスと捉え、継続的・段階的に支援を行ったり、外部専門機関との連携を図ったりする等の対応を適切にしています。さらに、問題を個人や一学級のこととせず全体（集団）の問題として捉え、自治的集団の醸成に生かす指導につなげる志向があるようです。

ところで、危機管理の考え方の1つ「スイスチーズモデル」をご存知でしょうか。事故が発生するのは、「何枚かの重ねた薄切りチーズの1枚1枚の穴が貫通してしまい、穴を通して向こうが見える状態になった時である」と、発生メカニズムを説明するものです。穴（ミス・瑕疵）は必ずあるものなので、貫通するリスクを最小限にする（可能な限り未然防止する）ためには、日頃から1枚1枚（人・環境・システム等）にある穴を小さくしておいたり、穴が貫通しそうな時（ヒヤリハット事例）には迅速にスライスの枚数を増やしたりして、穴の貫通を回避する必要があるようです。



このモデルにおいては、本センターの役割は学校と共に、チーズの「枚数増量」や1枚1枚の「厚さアップ」「穴のサイズダウン」をめざすこと、と言えそうです。新年度も本市学校教育の更なる充実と発展に向けて職員一同努めて参りますので、今後とも御支援・御協力をいただきますようお願いいたします。

令和3年12月に実施した中堅教諭等資質向上研修④・6年目研修③をもって、中核市として4年目の教職員研修を終了しました。

昨年度から続くコロナ禍のため、やむを得ず中止した研修もありましたが、ほぼすべての研修を実施することができました。Web会議による遠隔研修を中心に研修形態を工夫し、皆様の御理解と御協力のおかげで、無事実施することができました。感謝申し上げます。

令和3年度の研修の重点は、中堅教諭等資質向上研修及び6年目研修を中心として、鳥取市全教職員が「魅力」と「徹底」による学力向上、豊かなかかわりによる自己有用感の育成、一人一人の教育的ニーズに対応した教育にベクトルをそろえたことと、GIGAスクール構想に対応して、日々の学習場面で児童生徒がICTを効果的に活用しながら主体的・対話的で深い学びが実現できるようにしたことです。

今後の教職員研修も、一人一人の教育的ニーズに対応した教育を基盤にしつつ、「魅力」と「徹底」による学力の向上、豊かなかかわりによる自己有用感の育成を見据えた研修を実施していきます。また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、1人1台端末の効果的な活用等、授業力を高める研修を行い、Myアイデアを活かし、ベクトルをそろえた実践で教師力アップ！学校力アップ！をめざします。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

令和3年度 教職員研修の成果と課題

毎年実施している教職員研修に係るアンケートの対象を、今年度は全教職員（非常勤講師は除く）に変更しました。これにより学校からのご意見をより活かし、学校への支援につながる教職員研修の企画・運営につなげていきたいと考えています。

アンケート結果から、研修受講者の「教師力アップ」につながった成果の部分と、「学校力アップ」につなげていく部分での課題も明らかになりました。

教職員研修アンケートのまとめ

4段階評価（青:できた 赤:ややできた 黄:あまりできなかった 緑:できなかった）

重点項目	具体的な姿	結果
I 自己有用感の育成	1 児童生徒が豊かなかかわりの中で自分や周りの人のよさに気づくような手だてを講じた	
	2 スクリーニングやアセス、QU等の諸検査結果を支援に活かした	

Iでは、全体の肯定的評価は目標値を越えています。「できた」と回答する割合は、特に経験年数6年目以降で向上していました。学級担任として児童生徒のかかわりを意識した学級づくり、話し合い活動の有用性を感じ、まさに実践していくキャリアステージとなり意識が高まっていくためと考えられます。今後は、「できた」と回答する割合を高められるよう教職員研修を通して支援していきたいと考えています。

II 学力向上	1 学習意欲を高めるために、前時の振り返りから児童生徒と共に具体的なめあてづくりを行った	
	2 学習内容の定着を図るための時間を、毎時間設定していた	

Ⅱ－１・２は、目標値には達してはいますが、学力向上につながる授業づくりに向けて「できた」と回答した割合は全教職員の２割程度でした。今後は、「できた」と回答する割合を高められるよう教職員研修を通して支援していきたいと考えています。

重点項目	具体的な姿	結果
Ⅱ ICT活用	3 ICTを活用する授業が行えるように研修(校内も含む)を受けた	
	4 児童生徒が１日に１回以上ICTを活用している授業を行った	

Ⅱ－３は、肯定的評価が高く、ICTを活用する授業が行えるよう、各学校において積極的に研修に取り組んでいることが分かります。一方、Ⅱ－４で、授業でのICTの活用については、目標値を下回っており、実践へのつながりに課題が見られました。来年度は、授業の中でICTを積極的に活用できるよう教職員研修を通してよりいっそう支援していきたいと考えます。

Ⅲ Myアイデアの活用 ※研修受講者のみ回答	1 Myアイデアシートの案を数人で話し合った	
	3 Myアイデアシートを使ってプロジェクトチーム・学年会・職員会議等に提案した	

「Myアイデア」の案を話し合ったと肯定的に回答した教員のうち79%は、Ⅲ－３でプロジェクトチーム・学年会・職員会議等に提案したと回答しています。「Myアイデア」を実現するためには、案を話し合うところからスタートする必要があります。ところが、受講者の約8割が、「Myアイデアシート」をもとにした話し合いが実施できていないと回答しています。これは、活用方法の周知徹底の不足や、学校現場の多忙化などが考えられます。来年度に向けて「Myアイデアシート」を活用できる取組を行っていききたいと考えます。また、各設問で「できた」と答えられる割合が高まるように研修を通じて「教師力アップ!」「学校力アップ!」につなげていきたいと思ひます。

<「Myアイデア」からの実践例>

～ Ⅲ－４ どのような取組を実現し、どのような成果が見られたか顕著なものがあればお答えください（自由記述）より ～

<実践>

「新卒３年目前後の若手教員と中堅教諭を交えて普段の学級経営のあり方について懇談し、協働して課題解決に取り組んだ。」

「Myアイデア」から実現した取組です。鳥取市中堅教諭等資質向上研修をきっかけとして、管理職のバックアップもあり実現しました。中堅教諭自身の「マネジメント力」と「リーダーシップ」を発揮する場として、若手を育成、支援する有志で、メンターチームによるOJTを実施したものです。水曜日の職員会議等の後に「学級づくり」や「生徒指導」等、様々なテーマに沿って話し合う取組を継続したことで、職員室内でも若手が相談できる姿が、以前にも増して見られるようになりました。

鳥取市教職員研修を有効に活用した中堅教諭等のリーダー育成をきっかけとして、初任者育成及び若手育成とともに教職員がともに成長し、学び続けようとする意識を高めた実践例です。



職員室で先輩教員に相談する初任者

下の表は令和3年度1月末までの鳥取市小・中・義務教育学校の不登校児童生徒数の集計です。令和2年度末の不登校児童生徒の出現率は小学校1.28%、中学校4.26%でしたので、今年度も増加傾向となりました。

鳥取市の小・中・義務教育学校の各学年の不登校分類児童生徒数・出現率 (令和3年度1月末現在)

	小学校						中学校			小学校 合計	中学校 合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年		
30日以上人数	6	19	11	31	30	37	70	80	70	134	220
30日以上出現率	0.39%	1.20%	0.70%	1.83%	1.93%	2.32%	4.71%	5.09%	4.41%	1.41%	4.74%
20～29日	1	2	3	5	5	5	9	14	10	21	33
7～19日	3	4	1	4	6	3	17	35	22	21	74

※小学校には義務教育学校前期課程、中学校には義務教育学校後期課程を含む

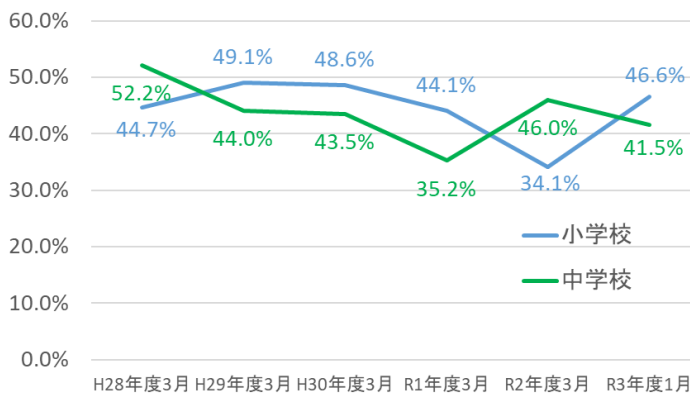
不登校児童生徒の変容の状況 (令和3年度1月末現在)

		小学校	中学校
継続的に登校する	A 教室に入り通常の学習ができる	17	16
	B 相談室・保健室登校ができる	6	7
断続的に登校する	C 教室に入り通常の学習ができる	22	41
	D 相談室・保健室登校ができる	9	24
登校にチャレンジする	E 教室に入り通常の学習ができる	6	13
	F 相談室・保健室登校ができる	7	19
G A～Fほどではないが、改善が見られる		19	35
H 改善の兆しが見られない		48	65
計		134	220

教職員以外での支援の状況 (複数回答可)

校種	支援機関・職種									特になし
	サポートルーム	児童福祉相談所等	医療機関	カウンセラー	児童生徒相談員等	スクールソーシャルワーカー	フリースクール	IT等を活用した自宅学習支援	東部少年サポートセンター等 法務少年支援センター等 その他	
小学校	15	26	77	53	15	33	8	2	29	9
中学校	11	42	92	61	47	14	13	2	25	41

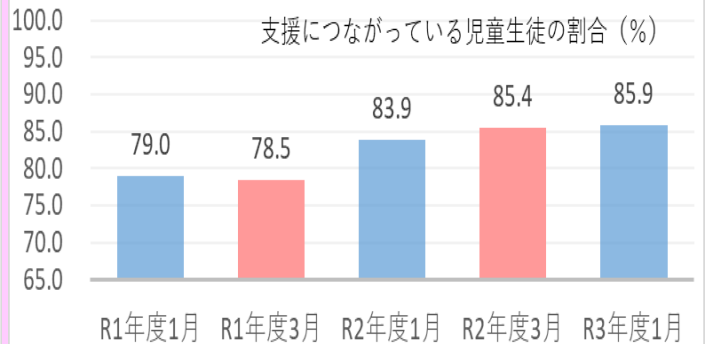
不登校児童生徒の継続・断続での登校率



<市全体>

不登校児童生徒数に占める教職員以外 (SC・SSW等も含む) の

支援につながっている児童生徒の割合 (%)



令和3年度1月末現在ですが、今年度の不登校児童生徒における継続・断続での登校率は小学校46.6%、中学校41.5%でした。年間通しての欠席日数が30日以上であっても、約40%の不登校児童生徒が学校との関係が切れずに教室や相談室等で継続・断続的に登校できていることが分かります。

不登校児童生徒の多くが学校はもちろん、学校以外の支援につながっていることが分かります。教職員の見取りやスクリーニング等のデータをもとに、不登校の兆候を早期に発見し、児童生徒の背景に応じた適切な居場所を提供したり、関係機関につながる割合が増えています。

不登校児童生徒の出現率が上がり続けることが懸念されます。不登校またはその傾向になっている背景や困り感等は個によって異なり、対応も様々です。ただ、対応で共通して大切なことは、学校はもちろん関係機関等も含め、関わっている人がいるということです。時間がかかるケースもありますが、このことが学校復帰や社会的自立へのきっかけになります。今後も児童生徒を軸にした適切な支援策の構築をお願いします。